

# 日本経済政策学会ニューズレター

## No.36 2022

### 目 次

1. 前会長の退任挨拶
2. 新会長の就任挨拶
3. 2022年6月～2025年5月期の役員選出について
4. 新学会役員
5. 日本経済政策学会総会議事録
  1. 報告事項
    - (1) 本部会務報告
    - (2) 各部会報告
    - (3) 各委員会報告
    - (4) その他
  2. 協議事項
    - (1) 会員状況
    - (2) 2021年度決算書の件
    - (3) 2022年度予算書の件
    - (4) 名誉会員推薦の件
    - (5) 全国大会・国際会議の件
    - (6) 2021年度学会賞の件

## 1. 前会長の退任挨拶

2019年度城西大学大会の総会で会長に選出され、柳川隆先生から会長職を引き継ぎましたが、3年の任期終了に伴い、今回の名古屋学院大学大会で福重元嗣先生にバトンタッチする事となりました。この間、未曾有のコロナ禍に巻き込まれる事になろうとは、当然予想しておりませんでした。

2019年の中央大学で開催された国際会議を無事終了した後、それは突然襲ってきました。皆様ご承知の通り、翌年の4月7日に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が安倍首相（当時）により発出されましたが、追手門学院大学で開催予定の全国大会が翌月末に迫っている時期でした。当時、学会のリモート開催は前例がありませんでしたが、5月の頭から所属校でリモート形式の授業を行う予定となり、その為の準備が進められる事になったのを機に、学会でのリモート開催も可能かどうかを情報委員会で検討して頂きました。その結果、技術的には十分可能であるとのご報告があり、リモート開催を決断致しました。その時点で既にリモート開催を決めていた他の経済学系の学会がありましたが、開催日は我々よりも後であり、他の学会の事例を参考にすることができない状況でした。理論的には大丈夫なはずであっても、実際に何が起こるかを完全に予測する事はできませんから、リスクをゼロにはできません。この時、最終責任は会長である私にあるのだと腹を括りましたが、逆に会長職とはいかなるものなのかを身をもって感じたでき事でもありました。その後、コロナの収束がなかなか見通せない中、秋の広島大学担当の国際会議、翌21年の関東学院大学での全国大会、東京大学での国際会議とリモート開催が続きましたが、全国大会プログラム研究・開発委員会、国際会議プログラム委員会、全国大会・国際会議両運営委員会及び開催校、情報委員会、その他、大会や国際会議に関わられ、参加された方々のご尽力により、通常開催と遜色のない内容で実施する事ができたと思います。改めまして学会員や開催校の関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

そして、今回の名古屋学院大学での全国大会は、久しぶりの対面での開催となりました。4月上旬の時点では、ゴールデンウィーク後の事でもあり、開催形式については正直相当悩みましたが、運営委員会はじめ開催校関係者の皆様、プログラム委員会、情報委員会の皆様により、デフォルトを対面開催としつつ、万が一に備えてリモート開催への変更にも対応可能な完璧な準備をして頂きました。今回も最終責任は会長の私にあるのだと自覚しておりましたが、研究者としてだけでなく実務能力も兼ね備えた優秀な方々に囲まれて、正直大船に乗った気持ちでございました。今大会を成功に導いて頂いた上記の皆様方、及び大会に参加されたすべての会員の皆様方に深く感謝しております。ところで、大会開催中や大会後に、久しぶりに会場で報告を聞き、直接議論に参加し、知り合いの会員といろいろ話ができて良かったとのご感想を頂きました。経済政策学の涵養にとって、生身の人間と人間が直接交流する場がいかに大切かを改めて痛感した次第です。最後になりましたが、福重新会長のより一層のご活躍を祈念しつつ、会員の皆様と共に新会長を盛り立てていければと願っております。

日本経済政策学会  
前会長 小澤 太郎

## 2. 新会長の就任挨拶

2022年6月より会長となりました福重元嗣です。よろしくお願いいたします。小澤太郎前会長より会長職を引き継ぎ、これから約3年間、日本経済政策学会の発展のために会長として努力して参る所存です。会員の皆様にはご協力のほどよろしくお願いいたします。ホーム・ページにはこれから会員になっていただける研究者他一般の皆様にご紹介するご挨拶を掲載いたしました。ニューズレターでは、会員の皆様に向けて会長として現在考えていることをお伝えするとともに、更なる御協力のお願いを持って挨拶としたいと思います。

日本経済政策学会の喫緊の課題は、会員数の問題です。大学教員の定員が激減しているわけではないですが、国内外の多くの経済系の学会では会員の高齢化はもちろんですが、会員数がどんどん減っているのが現状のようです。すでに会員の皆さまは御存じだとは思いますが、5月の会員総会でもお伝えしましたように会員が800名を割り込んでおります。単純に会員数が多いことが良いことであるとは言えないですが、会員の交流、更には共同研究や研究集会の開催など、学会として会員の皆様へのサービスの向上のためには、会費収入はもとよりマン・パワーという意味でも会員が多いことは一つのメリットです。もちろん会員を広く募ることは、様々な考えを持った会員が増えることにもつながり、学会に対する期待も多様化する可能性があります。日本経済政策学会では、これまでも多様な考えを持った方々に会員になっていただいております。学会としては特定の主義・主張に対しては中立の立場をとりながら、様々な考え方の会員が経済政策学という学問の発展のために切磋琢磨できるプラットフォームになればと考えております。個々の会員の皆様にも、広い意味での経済政策に関連する研究者他の方を一人でも多く会員に誘っていただければありがたいと考えております。

学会として、もう一つ進めるべきは、会員の皆様が、研究を進めてゆくうえで使い勝手の良い学会となることだと考えております。もちろん全国大会や国際会議を通じた情報の提供や発信の場の提供はこれ迄も行って来たことではあります。これらに加えて、いわゆるDXの時代に即した、会員情報システムやホーム・ページの改善など、少しずつではありますが、進めてゆきたいと考えております。会員の皆様からも色々と希望を出していただければ、出来る範囲で対応して行きたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

就任の挨拶でお願いばかり申し上げ恐縮ですが、私が考え付くことには限界がありますので、会員の皆様からも様々な提案をいただき、日本経済政策学会をよりよい組織となるよう努力して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

日本経済政策学会  
会長 福重 元嗣

### 3. 2022年6月～2025年5月期の役員選出について

#### 役員選挙・選出報告

- 1) 役員選挙告示 2021年9月15日
- 2) 役員選出投票用紙の送付 2022年1月13日
- 3) 投票方法 官製葉書返送による無記名投票
- 4) 選挙事務担当機関 地方選挙管理委員会（各部会事務局に置く）
- 5) 投票期限 2022年2月18日（当日消印有効）
- 6) 開票結果

各地方選挙管理委員会による開票の結果、以下の会員が選挙により選出された常務理事として報告された。

（五十音順）

部会	当選者氏名（所属）
関東	飯島大邦（中央大学）、小澤太郎（慶應義塾大学）、 駒村康平（慶應義塾大学）、中村まづる（青山学院大学）、 西川雅史（青山学院大学）、前田章（東京大学）、矢尾板俊平（淑徳大学）
中部	伊澤俊泰（名古屋学院大学）、渡邊隆俊（愛知学院大学）
関西	衣笠智子（神戸大学）、福重元嗣（大阪大学）、 宮田由紀夫（関西学院大学）、柳川隆（摂南大学）
西日本	秋山優（九州産業大学）、宍倉学（長崎大学）

（計 15名）

#### 7) 選挙によらない常務理事の選出

役員選挙当選者による新常務理事会（2022年4月2日、於・オンライン）で、学会運営細則に関する覚書6-1での記載に基づき、残る10名の常務理事が選ばれた。

（五十音順）

部会	氏名（所属）
関東	和泉 徹彦（嘉悦大学）、川崎 一泰（中央大学）、 千田 亮吉（明治大学）、永富 隆司（国士館大学）、 松本 茂（青山学院大学）
中部	土井 康裕（名古屋大学）
関西	竹廣 良司（同志社大学）、長峯 純一（関西学院大学）、 勇上 和史（神戸大学）
西日本	朴 哲洙（熊本学園大学）

（計 10名）

### 4. 新学会役員

#### 名誉会員・役員

##### 歴代会長

山中篤太郎（代表 理事）	加藤 寛（初代 会長）	新野幸次郎（第二代会長）
藤井 隆（第三代会長）	柏崎利之輔（第四代会長）	野尻 武敏（第五代会長）
植草 益（第六代会長）	横井 弘美（第七代会長）	横山 彰（第八代会長）
丸谷 治史（第九代会長）	松本 保美（第十代会長）	荒山 裕行（第十一代会長）
中村まづる（第十二代会長）	柳川 隆（第十三代会長）	小澤 太郎（第十四代会長）

## 名誉会員

今泉 博国 内山 敏典 川野辺裕幸 小西 唯雄 酒井 邦雄  
清水 嘉治 新庄 浩二 杉野 元亮 鈴木多加史 施 昭雄  
田中 康秀 谷口 洋志 土井 教之 西野 萬里 野田 稔  
林 直嗣 松浦 茂治 眞継 隆 松本 保美 丸谷 冷史  
横井 弘美 横山 彰

磯辺 喜一 (昭 62 逝去) 板垣 與一 (平 15 逝去) 伊東 岱吉 (平 8 逝去)  
伊東 正則 (平 18 逝去) 植草 益 (平 31 逝去) 梅田 政勝 (昭 62 逝去)  
越後 和典 (平 30 逝去) 近江谷幸一 (平 17 逝去) 尾上 久雄 (平 26 逝去)  
柏崎利之輔 (平 22 逝去) 加藤 壽延 (平 15 逝去) 加藤 寛 (平 25 逝去)  
気賀 健三 (平 13 逝去) 熊谷 尚夫 (平 9 逝去) 黒川和美 (平 23 逝去)  
五井 一雄 (令 2 年逝去) 小島 清 (平 21 逝去) 小松 雅雄 (平 22 逝去)  
佐藤 芳雄 (平 10 逝去) 田村 泰夫 (平 9 逝去) 中村秀一郎 (平 19 逝去)  
新野幸次郎 (令 2 年逝去) 野尻 武敏 (平 30 逝去) 野間 俊威 (平 29 逝去)  
原 豊 (平 25 逝去) 藤井 茂 (平 12 逝去) 藤井 隆 (平 29 逝去)  
藤田 敬三 (昭 60 逝去) 松尾 弘 (平 7 逝去) 丸尾 直美 (令 2 年逝去)  
宮城 辰男 (平 15 逝去) 本吉 敬治 (平 21 逝去) 吉田徳三郎 (平 28 逝去)

## 会 長

福重 元嗣

## 副会長

伊沢 俊泰 朴 哲洙 前田 章 宮田 由紀夫

## 地方部会代表

関東部会 小澤 太郎 (慶應義塾大学)  
中部部会 伊沢 俊泰 (名古屋学院大学)  
関西部会 衣笠 智子 (神戸大学)  
西日本部会 秋山 優 (九州産業大学)

## 常務理事

(50 音順)

### [関東部会]

飯島大邦 (中央大学) 和泉徹彦 (嘉悦大学) 小澤太郎 (慶應義塾大学)  
川崎一泰 (中央大学) 駒村康平 (慶應義塾大学) 千田亮吉 (明治大学)  
永富隆司 (国士舘大学) 中村まづる (青山学院大学) 西川雅史 (青山学院大学)  
前田章 (東京大学) 松本茂 (青山学院大学) 矢尾板俊平 (淑徳大学)

(計 12 名)

### [中部部会]

伊沢俊泰 (名古屋学院大学) 土井康裕 (名古屋大学) 渡邊隆俊 (愛知学院大学)

(計 3 名)

### [関西部会]

衣笠智子 (神戸大学) 竹廣良司 (同志社大学) 長峯純一 (関西学院大学)  
福重元嗣 (大阪大学) 宮田由紀夫 (関西学院大学) 柳川隆 (摂南大学)  
勇上和史 (神戸大学)

(計 7名)

[西日本部会]

秋山優 (九州産業大学) 宋倉学 (長崎大学) 朴哲洙 (熊本学園大学)

(計 3名)

(計 25名)

### 会計監事

鈴木 伸枝 (駒澤大学) 野北 晴子 (広島経済大学)

### 委員会

組織委員会

委員長 宋倉学 副委員長 角本伸晃  
事務局長 伊澤俊泰 事務次長 鈴木純  
委員 小澤 太郎・伊澤 俊泰・衣笠 智子・秋山 優  
(組織委員会は全国選挙管理委員会を兼ねる)

地方選挙管理委員会

関東部会委員長 小澤 太郎+委員(部会幹事)  
中部部会委員長 伊澤 俊泰+委員(部会幹事)  
関西部会委員長 衣笠 智子+委員(部会幹事)  
西日本部会委員長 秋山優 +委員(部会幹事)

経済政策ジャーナル

編集委員会

委員長 勇上和史 副委員長 中澤克佳  
事務局長 湯之上英雄

国際交流委員会 (予定)

委員長 (共同) 土井 康裕  
委員長(共同:国際会議担当) 矢尾板 俊平  
副委員長 前田章 副委員長 後藤 大策  
事務局長 (HP 担当) 和泉 徹彦  
事務局長 (VISA 担当) 未定

国際会議

プログラム委員会 (予定)

委員長 後藤 大策  
副委員長 未定

I J E P S 編集委員会

委員長 前田章 副委員長 柳川隆  
副委員長 張 星源 副委員長 松本 茂  
副委員長 村松 幹二 副委員長 本西 泰三

学会運営企画委員会

委員長 川崎一泰 副委員長 水野倫理  
事務局長 牛房 義明 事務次長 川瀬 晃弘

全国大会プログラム

研究・開発委員会

委員長 永富 隆司 副委員長 渡邊 隆俊  
事務局長 石原 敬子 事務次長 諸賀 加奈

学会賞選考委員会

委員長 村瀬 英彰 副委員長 衣笠 智子

情報委員会

委員長 和泉 徹彦 副委員長 河野 敏鑑  
事務局長 柴田 玲

## 理事

(50音順)

### 〔関東部会〕

飯田 泰之 (明治大学)  
岡田 羊祐 (一橋大学)  
柴田 怜 (国士舘大学)  
鈴木 伸枝 (駒澤大学)  
瀧澤 弘和 (中央大学)  
柘植 隆宏 (上智大学)  
中島 正人 (大東文化大学)  
中村 匡克 (高崎経済大学)  
長谷川 雄哉 (関東学園大学)  
藤永 修一 (明治大学)  
堀 潔 (桜美林大学)  
森 由美子 (東海大学)  
山下 隆之 (青山学院大学)  
和田 龍磨 (慶應義塾大学)

池田 浩史 (東京国際大学)  
藏田 幸三 (千葉商科大学)  
嶋中 雄二  
(三菱UFJモルガン・スタンレー証券)  
瀬野 隆 (国士舘大学)  
竹内 健蔵 (東京女子大学)  
鳥飼 行博 (東海大学)  
中平 千彦 (明海大学)  
庭田 文近 (城西大学)  
馬場 正弘 (敬愛大学)  
布田 功治 (亜細亜大学)  
松波 淳也 (法政大学)  
柳沢 智美 (城西大学)  
横山 将義 (早稲田大学)

和泉 徹彦 (嘉悦大学)  
胡 青 (釧路公立大学)  
徐 一睿 (専修大学)  
芹澤 高斉 (淑徳大学)  
田中 則仁 (神奈川大学)  
中澤 克佳 (東洋大学)  
中村 大輔 (中央大学)  
根本 志保子 (日本大学)  
福田 紫 (関東学院大学)  
細谷 圭 (國學院大学)  
武者 加苗 (札幌大学)  
藪田 雅弘 (中央大学)  
吉野 直行 (慶應義塾大学)

(計 40名)

### 〔中部部会〕 (案)

秋山健太郎 (星城大学)  
小林甲一 (名古屋学院大学)  
中村岳穂 (金城学院大学)  
渡邊聡 (愛知淑徳大学)  
竹下諒 (中京大学)

李秀澈 (名城大学)  
高倉博樹 (静岡大学)  
中山徳良 (名古屋市立大学)  
吉田雅彦 (愛知学院大学)  
1名調整中

大石邦弘 (名古屋学院大学)  
鶴田利恵 (四日市大学)  
水野英雄 (椙山女学園大学)  
園田正 (名古屋大学)

(計 14名)

### 〔関西部会〕

青木 芳将 (立命館大学)  
市橋 勝 (広島大学)  
片山 尚平 (広島修道大学)  
熊谷 太郎 (松山大学)  
鈴木 純 (神戸大学)  
寺井 晃 (京都産業大学)  
平本 賢了 (広島経済大学)  
村上 亨 (追手門学院大学)  
カルロス・マリア・レイナルース  
(龍谷大学)

朝田 康禎 (摂南大学)  
上田 雅弘 (同志社大学)  
川上 敏和 (同志社大学)  
黒坂 真 (大阪経済大学)  
谷花 佳介 (関西国際大学)  
豊山 宗洋 (大阪商業大学)  
溝端 泰和 (関西大学)  
村上 礼子 (近畿大学)  
和田 聡子 (大阪学院大学)

生田 祐介 (大阪産業大学)  
岡本 弥 (神戸学院大学)  
久下沼 仁筈  
(京都先端科学大学)  
佐々木 昭洋 (岡山商科大学)  
張 星源 (岡山大学)  
朴 勝俊 (関西学院大学)  
宮崎 智視 (神戸大学)  
山岡 淳 (大阪成蹊大学)  
渡邊 真治 (大阪府立大学)

(計 27名)

### 〔西日本部会〕

石田 一之 (琉球大学)  
大谷 健太郎 (名桜大学)  
高見 博之 (大分大学)  
外園 智史 (九州産業大学)  
諸賀 加奈 (九州大学)

井田 貴志 (熊本県立大学)  
大野 正久 (熊本大学)  
チョウドリ・マハブブル・アロム  
(福岡女子大学)  
宗像 優 (九州産業大学)

牛房 義明 (北九州市立大学)  
狩野 秀之 (宮崎大学)  
綱 辰幸 (長崎県立大学)  
森田 薫夫 (福岡大学)

(計 13名)

(計 94名)

## 本部幹事

(50音順)

### [関東部会]

石島 博 (中央大学)	伊藤 穰 (横浜商科大学)	角本 伸晃 (実践女子大学)
川瀬 晃弘 (東洋大学)	権丈 英子 (亜細亜大学)	鈴木 伸枝 (駒澤大学)
館 健太郎 (駒澤大学)	塚原 康博 (明治大学)	中澤 克佳 (東洋大学)
成田 大樹 (東京大学)	松浦 司 (中央大学)	村瀬 英彰 (学習院大学)
矢口 和宏 (敬愛大学)	和田 龍磨 (慶應義塾大学)	

(計 14名)

### [中部部会] (案)

李 秀澈 (名城大学)	大石 邦弘 (名古屋学院大学)	吉田 雅彦 (愛知学院大学)
1名調整中		

(計 4名)

### [関西部会]

石原 敬子 (兵庫大学)	春日 教測 (甲南大学)	後藤 大策 (広島大学)
田中 悟 (神戸市外国語大学)	仲間 瑞樹 (流通科学大学)	水野 倫理 (神戸大学)
本西 泰三 (関西大学)	和田 聡子 (大阪学院大学)	

(計 8名)

### [西日本部会]

井田 貴志 (熊本県立大学)	黒木 宏一 (九州産業大学)	佐藤 秀樹 (福岡女子大学)
高見 博之 (大分大学)	宮城 和宏 (沖縄国際大学)	

(計 5名)

(計 31名)

## 部会幹事

(50音順)

### [関東部会]

小林 秀行 (労働安全衛生総合研究所)	小森谷 徳純 (中央大学)	柴田 怜 (国士舘大学)
渋谷 遊野 (東京大学)	田中 健太 (武蔵大学)	中村 匡克 (高崎経済大学)
長屋 真季子 (昭和女子大学)	萩原 里紗 (明海大学)	舟島 義人 (東北学院大学)
松野 由希 (淑徳大学)	松八重 泰輔 (中央大学)	宮下 量久 (拓殖大学)
武者 加苗 (札幌大学)		

(計 13名)

### [中部部会] (案)

村上 寿来 (名古屋学院大学)	渡邊 聡 (愛知淑徳大学)	水野 英雄 (椙山女学園大学)
-----------------	---------------	-----------------

(計 3名)

### [関西部会]

岡本 弥 (神戸学院大学)	木下 信 (龍谷大学)	小橋 晶 (同志社大学)
坂西 明子 (立命館大学)	佐々木 俊一郎 (近畿大学)	佐藤 真行 (神戸大学)

西川 浩平（関西大学）                      野北 晴子（広島経済大学）                      溝端 泰和（関西大学）  
村田 美希（追手門学院大学）                      和田 美憲（同志社大学）  
（計 11名）

#### [西日本部会]

比嘉 正茂（沖縄国際大学）                      宗像 優（九州産業大学）                      森田 薫夫（福岡大学）  
諸賀 加奈（九州大学）                      吉田 友紀（佐賀大学）  
（計 5名）

（計 32名）

#### 学術機関活動

日本経済学会連合評議員                      駒村 康平                      村上 礼子

## 5. 日本経済政策学会総会議事録

日時 2022年5月28日（土）  
会場 名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとり

総会議長の選出  
総会議長に宮田由紀夫副会長を選出した。

### 1. 報告事項

#### (1) 本部会務報告

##### (1-1) 会員状況

### 2. 協議事項 (2-2) 会員状況を参照

#### (1-2) 2021年度常務理事・幹事会

日本経済政策学会 第20回国際会議  
全国常務理事・幹事会 議事録

日時：2021年11月5日（金） 16:00～18:00  
場所：zoom オンライン  
参加者：26名，委任状19名

#### 協議事項

##### 1. ニューズレターの確認

小澤会長から出席者にニューズレターの内容について確認を求めて、特にご意見・質問はなく了承された。

##### 2. 国際会議開催について（第20回・東京大学、第21回・神戸大学）

前田副会長から第20回国際会議（東京大学）は、当初オンサイトとオンラインの併用開催を企画していたが、感染防止の観点から完全オンライン開催となったとの報告があった。

衣笠本部幹事から第21回国際会議を神戸大学で開催することの報告と、開催に向けて関係者への協力の呼びかけがあった。

### 3. 全国大会開催について（第79回・名古屋学院大学、第80回・中央大学）

小林常務理事から次期全国大会について説明があった。第79回全国大会は2022年5月28日（土）29日（日）に名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとりにて対面での開催を予定している。大学から会場使用が認められなければ、改めて開催方法を検討することになる。来年1月頃に判明する予定である。いずれにしても、懇親会開催は難しい見通しである。

飯島常務理事から第80回全国大会（中央大学）について、80周年記念にふさわしい企画を協議していきたいとの報告があった。

### 4. その他

#### ・国際交流委員会副委員長の交代

中平会員から第20回国際会議終了をもって国際交流委員会副委員長を辞任したいとの申し出があり、矢尾板国際会議プログラム委員長を充てる委嘱を会長が行い、異議なく了承された。

#### ・役員選挙

小澤会長から役員選挙の実施にあたり会員に有権者名簿を送るが、前例に則り、役員選出を辞退される会員に星印をつけるようにしたいとの提案があった。秋山副会長・組織委員会（兼全国選挙管理委員会）委員長から星印はご本人の申し出に基づくことが原則になるとの見解が示された。柳川前会長から星印をつける前例が生まれた経緯について説明があった。ご定年間近の会員に常務理事任期を全うできないことを避けるために選出を辞退されるかを地方部会代表がお伺いしていた。被選挙権を無くすということではなく、投票する目安とする措置である。若い世代の会員が役員選出を辞退することは想定していない。

10月1日現在の会員名簿により、選挙により選出される常務理事15名（関東部会7名、中部部会2名、関西部会4名、西日本部会2名）、推薦による常務理事10名（関東部会5名、中部部会1名、関西部会3名、西日本部会1名）となる。これは前回役員選挙と同じ構成である。

以上、小澤会長から例年通りの方法で役員選挙を行うことが提案され、了承された。

## 報告事項

### 1. 第78回全国大会（関東学院大学）の開催報告

宮本大会運営委員会委員長から、関東学院大学（オンライン）での第78回全国大会が無事終了したことが報告された。詳細は資料の通り。

### 2. 各部会報告

関東部会と中部部会からは特になし。

柳川部会代表から関西部会は来年3月に部会を予定しており、オンラインでの開催の見通しとの報告があった。

秋山部会代表から西日本部会は3月に部会理事・幹事会及び部会第105回大会、そして10月に部会理事・幹事会及び部会第106回大会をいずれもオンラインで開催したとの報告があった。

### 3. 各委員会報告

飯島出版編集委員会委員長から、「経済政策ジャーナル」について報告があった。詳細は資料の通り。

矢尾板国際会議プログラム委員会委員長から国際交流委員会・国際会議プログラム委員会について国際会議の開催方式変更の報告があった。オンサイトとオンラインの併用開催から、完全オンライン開催に変更し、さらにオンラインは zoom リアルタイムとビデオを併用したハイブリッド方式にて開催することとした。詳細は資料の通り。

前田 IJEPS 編集委員会委員長から IJEPS について報告があった。刊行状況および査読状況、採択率 38.9% (最新)、そして出版社との交渉などの説明があった。詳細は資料の通り。

佐竹学会運営企画委員会委員長から第 79 回全国大会での企画セッションを見送るとの書面報告があった。

永富全国大会プログラム研究・開発委員会副委員長から、宮田委員長に代わり第 78 回全国大会及び第 79 回全国大会について報告があった。第 79 回全国大会は 3 年ぶりの対面開催の予定なので準備方法などの引継を慎重に進めていきたい。

松本情報委員会委員長から学会ホームページと国際会議ホームページを委員で分担して運営しているとの報告があった。小澤会長から学会サーバーの引継問題の状況について質問があり、委員長及び和泉副委員長から以前の外部委託先が音信不通であり、以前の [jepa.jp](http://jepa.jp) ドメインの管理が放棄されるまで現在の [jepa.jpn.org](http://jepa.jpn.org) を使い続ける方針が説明された。

駒村副会長から、日本経済学会連合の 70 周年記念事業に対する協力について報告があった。Web 出版と YouTube チャンネル動画作成の 2 件について協力を求められており、締め切りが延長された。小澤会長から新野幸次郎先生のメモリアルセッションに触発され、持続可能性を核とした学会の紹介を Web 出版するのはどうかとの提案があった。締め切りがどれだけ延長されるかにもよるが、YouTube チャンネル動画作成についても検討してみたいとの意向が示された。

#### 4. その他

永富常務理事から学会ホームページにリスト掲載している全国大会の開催校ホームページが次第に失われている現状について報告があり、全国大会の記録を残していく方法について意見を求める提案があった。松本情報委員長から以前から検討事項であったが、開催校ホームページを丸ごと学会ホームページに移すのは難しいので、一定のルールに基づいて残す情報をまとめてもらい、それを学会ホームページで公開する方法が望ましいとの発言があった。和泉副委員長からも委員長に同意する発言があった。小澤会長から情報委員会と全国大会プログラム研究・開発委員会が連携し、永富先生も関与する形でとりまとめて欲しいとの意向が示された。

(文責 和泉徹彦)

### (1-3) 第 20 回国際会議報告

2022 年 5 月

#### 2021 年度第 20 回国際会議(JEPA 2021)開催完了報告

第 20 回国際会議運営委員会  
前田章

2021 年 11 月開催日本経済政策学会第 20 回国際会議 (JEPA2021) は、国際交流委員会 (委員長: 柳川先生), 国際会議プログラム委員会 (委員長: 矢尾板先生, 事務局長: 衣笠先生) の先生方の多大なるご支援とご協力のおかげで無事に開催し終了することができました。お礼申し上げます。以下に概略を報告いたします。

### (1)会議概要

開催日程：2021年11月6日（土）－7日（日）（録画へのコメント等は13日まで）

開催形式：完全オンライン（Zoomによるリアルタイムおよび事前録画視聴）

開催運営校：東京大学

### (2)プログラム概要

#### 第1日目

9:45 開始 学会会長挨拶（小澤先生），プログラム委員会事務局長司会（衣笠先生）

10:00-12:00 プレナリーセッション

テーマ「The Return of Macroeconomic Policy Coordination in the Age of Secular Stagnation」

（矢尾板先生座長）

キーノートスピーチ 浜田宏一先生（Yale 大学） 討論 福田慎一先生（東京大学）  
パネル討論

和田龍磨先生（座長），浜田宏一先生，福田慎一先生，岩田一政先生，小林慶一郎先生

13:00-14:30 基調講演「Pharmaceutical Markets in the United States and Japan」

William S. COMANOR 先生（UCLA Fielding School of Public Health 教授，UCSB 特別名誉教授）

（モデレータ：前田章（東京大学））

#### 第2日目

9:00 開始 午前3セッション

午後 12:40-15:20 5セッション，15:35-17:35 5セッション

各セッション 2～4件の発表

事前録画セッション

4セッション，各4件程度の発表

### (3)参加人数等まとめ

エントリー数 77 件

報告許可数 69 件（内，辞退 6 件，当日欠席等 4 件，論文等提出無し 9 件）

報告数 50 件（内，Zoom オンライン発表 35 件，事前録画発表 15 件）

### (4)会計報告

本国際会議では完全オンライン開催であったことから，会計処理に関しては例年とはやや異なる処理がなされた．会計収支の主体と役割は以下の通り．

運営委員会（開催校）

収入：本部事務局より 20 万円の運営費支給．参加者 1 名の参加費 4 千円受取り．

支出：学生アルバイト料 11 万 6 千円．（残金は全額本部事務局へ返還）

本部事務局

運営校への運営費支給と残金返還

招待講演者への講演料／謝金支払い

国際交流委員会

収入：JTB を通した大会参加費の徴収

詳細は別紙運営委員会会計報告参照されたい．

以上

2022年5月

日本経済政策学会第20回国際会議 (JEPA2021)  
運営委員会会計報告

第20回国際会議運営委員会委員長  
前田章

国際会議収支の概要

第20回国際会議 (JEPA2021) は2021年11月6日～7日の2日間、全面オンラインにて開催された。当初は東京大学駒場キャンパスでの開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の国内外感染状況に鑑み、2021年8月のプログラム委員会にて全面オンラインとすることが決定された。そのため、今回の国際会議運営委員会の会計収支は以下のように異例の形をなした。

(1)物理的な会場の使用が不要となったため、会場使用料、情報機器・事務用品の利用料、休息室のお菓子・お茶代、会場設営のための人件費などが一切不要となった。また、オンライン実施に必要な Zoom 使用料も学会本部保有のライセンスを使用したため、開催校としては一切の支出がなかった。結果的に必要となった出費項目は以下の2点のみであった。

a. 招待講演者への謝金支払い

b. オンライン開催のもとでの IT サポートを主とした学生アルバイト人件費

(2)上記 a.については、講演者の内主たる講演者2名がいずれも米国大学からのオンライン参加であった。通常であれば、来日をして頂き、その際に対面で現金決済するなどの処理をすることであるが、来日がないため、海外送金という形での講演料支払が必要となった。このような形態は、外為法上の規制に従う必要性から、手続きが煩雑である。そのため、今回の国際会議においては、講演者への謝金支払いは国内分も含めて学会本部で一括して取り扱うこととなった。これにより、開催校としては一切の出費がないことになった。

(3)上記 b.については、東京大学の学生に相当と思われるバイト料として、労働時間に応じて支払いを行った。この詳細は後述する。

(4)一方収入については、金額は若干調整しつつも、例年通り大会参加費を徴収した。この参加費はプログラム委員会にて決定し、JTB への委託のもと、国際交流委員会にて管理することとなった。但し参加者一名について、例外的に JTB を通さずに参加費の受取りを行った。

(5)以上をまとめると、会計収支の主体と役割は以下のようになっていた。

運営委員会 (開催校)

収入：本部事務局より20万円の運営費支給。参加者1名の参加費4千円受取り。

支出：学生アルバイト料11万6千円。(残金は全額本部事務局へ返還)

本部事務局

運営校への運営費支給と残金返還

招待講演者への講演料/謝金支払い

国際交流委員会

収入：JTBを通じた大会参加費の徴収

支出：JTBへの支払いと本部または基金への入金

以下運営委員会 (開催校) の会計収支についてより詳細に記す。

運営委員会収支の詳細

収入の部

本部事務局より20万円の運営費支給

参加者1名の参加費4千円受取り

合計 204,000 円

支出の部

学生アルバイト料 11万6千円（下記「シフト表」）  
 振込み手数料（5件分） 110+110+209+110+110=649円  
 残金（全額本部事務局へ返還）87,021円  
 振込み手数料 330円  
 合計 204,000円

シフト表

Conference technical assistants for Day 1 and Day 2																
Name	Day 1 (Nov 6th)		Day 2 (Nov 7th) Morning				Day 2 (Nov 7th) Afternoon				Day 1	Day 2 AM	Day 2 PM	Total		
	Main	Sub	Zoom A	Zoom B	Zoom C	Reserve	Zoom A	Zoom B	Zoom C	Zoom D					Zoom E	Reserve
YeonSoo Song				X				X					0	6000	10000	16000
Abhishek Gupta						X					X		0	6000	10000	16000
Riku Negishi			X				X						0	6000	10000	16000
Taizhe Xu					X			X					0	6000	10000	16000
Xinran Song	X					X					X		10000	6000	10000	26000
Song Ling Yip		X				X			X				10000	6000	10000	26000
																116000

注 1) 1日目の勤務，2日目午前中の勤務，3日目午後の勤務をそれぞれ 10,000円，6,000円，10,000円の謝金とした。

注 2) Taizhe Xu 分については Xinran Song にまとめて振込みを行った。前者は邦銀に口座を持っていない中，中国国内において，海外送金手続きが難しいため，同じ中国人同士ということで，Xinran Song から Wechat という決済システムを通して送金することとした。

本部事務局と国際交流委員会の収支の概要（参考）

日本経済政策学会 2021 国際会議収支表（2022 年 1 月 27 日本部事務局作成）（添付資料 5）の通り。

日本経済政策学会 2021 国際会議収支表

添付資料 5

(2022年1月27日本部事務局作成)

収入		支出	
2021年度国際会議費(11/24一般会計から配分)	1,200,000	11/24担当校へ配分	200,000
12/9参加登録費受け入れ(JTB)	827,000	11/24振込手数料	550
		12/7討論者登壇料; 福田慎一先生	50,000
		12/7振込手数料	550
		12/7パネリスト登壇料; 岩田一政様	30,000
		12/7振込手数料	550
		12/7レジストレーションシステム作成・運営費(JTB)	406,995
		12/7振込手数料	550
		12/9源泉所得税10.21%納付(福田先生・岩田先生分)	9,096
		12/9参加登録時受け入れ年会費を一般会計口座(ゆうちょ銀行)へ移動	50,000
		12/7講演料、原稿料; 浜田宏一先生(アメリカ在中、国内銀行振込)	300,000
		12/7振込手数料	550
		12/7源泉所得税20.42%納付(浜田先生・Comanor先生分)	153,958
		12/7講演料、原稿料; Comanor先生(アメリカ在中、海外送金)	300,000
		12/7振込手数料(海外送金)	12,500
合計	2,027,000	合計	1,515,299

収支計(残高)	511,701
---------	---------

以上

(2) 各部会報告

## (2-1) 関東部会 2021年度 活動報告

関東部会 常務理事・幹事会

日時：2021年12月27日(月) 11:00～

開催形態：Zoomによるオンライン会議

議題：

1. 次期役員選挙  
中村部会長より次期選挙の実施方法について説明があった。感染状況により選挙の開票作業日程等を調整する可能性があることが言及された。  
次期の機関推薦理事への推薦依頼がなされた。
2. 第20回(2021年)国際会議  
矢尾板プログラム委員長より、2021年11月6日(土)・7日(日)に東京大学で開催された国際会議の概要説明があった。
3. 第79回(2022年)全国大会  
中村部会長より、2022年5月28日(土)・29日(日)に名古屋学院大学で開催予定の全国大会の概要説明があった。
4. 第21回(2022年)国際会議  
中村部会長より、神戸大学にて開催予定の2022年度の国際会議の説明があった。
5. 第80回(2023年)全国大会  
飯島理事より、2023年の全国大会を中央大学多摩キャンパスにて5月27日-28日の日程で開催する予定で準備を進めているとの報告があった。  
共通論題として、「これからの経済政策学を考える」という案を考えているとの説明があった。
6. 今後の関東部会担当の全国大会開催  
中村部会長より、第82回(2025年)、第84回(2027年)の全国大会の開催校を関東部会にて決定する必要があることの確認があった。
7. 名誉会員の推薦  
中村部会長より、名誉会員の規定の説明があり、候補者の推薦依頼があった。
8. 関東部会長  
中村部会長より、関東部会長の選定についての慣例が説明された。  
同慣例に基づき、小澤太郎現学会長が次期部会長に推薦され、これが了承された。
9. その他  
駒村理事より、学会のプラットフォームを利用して、丸尾先生を偲ぶ会の開催通知をしたいとの申し出があり、これが了承された。  
矢尾板理事より、2022年度の国際会議の準備状況についての説明があった。

(中村まづる 記)

## (2-2) 中部部会 2021年度 活動報告

### 1. 第54回中部地方大会

2020年度に引き続き、コロナ禍のため、＜施設見学会＞は中止とし、＜研究報告会＞は、常務理事3名の主催による Web ミーティングシステム Zoom を用いたオンライン開催としました。

＜研究報告会＞

日 時：2020年12月11日(土) 13:00～15:50

開催方法：Web ミーティングシステム Zoom にて開催

座 長：伊澤 俊泰 (名古屋学院大学)

研究報告① 論題：「Jリーグのホームスタジアム整備に関する理論分析」

報告者：萩原史朗 (名古屋学院大学)

討論者：水野 利英 (兵庫県立大学)

研究報告② 論題：“Regional Computable General Equilibrium Model of Japan and the Global Economy”

報告者：岩本朋大 (名古屋市立大学大学院)

[板倉 健(名古屋市立大学)氏との共著]

討論者：土井康裕 (名古屋大学)

研究報告③ 論 題：「供給制約の産業連関分析

—首都直下型地震を例にとって—

報告者：下田充((株)日本アプライドリサーチ研究所)、

渡邊隆俊 (愛知学院大学)

藤川清史 (愛知学院大学)

討論者：鬼頭浩文 (四日市大学)

## 2. 会員総会

常務理事・理事・幹事会 (メール会議) に諮り、例年、中部地方大会研究報告会時に開催される会員総会は中止しました。2021年度決算と2022年度予算については、次年度の総会で報告・承認をいただくこととしました。なお、2022年度の第55回中部地方大会は、愛知淑徳大学で開催することになりました。

## 3. 常務理事・理事・幹事会

コロナ禍のため、2021年度・第54回中部地方大会の開催および開催方法等を議題にメール会議にて (8月下旬と10月下旬の2回) 開催しました。

(小林甲一 記)

## (2-3) 関西部会 2021年度 活動報告

### 関西部会 2021年度部会報告

#### 1 関西部会 2021年度大会

関西部会 2021年度大会は木下信部会幹事を運営委員長として龍谷大学にて開催した。プログラムは以下の通りである。

#### 日本経済政策学会関西部会 2021年度大会プログラム

12:00～12:55 関西部会常務理事・理事・幹事会 22号館106教室

13:00～13:05 開催挨拶木下信 (龍谷大学)

13:05～15:20 研究報告座長福重元嗣 (大阪大学)

第1報告(13:05～13:50)

「パネルデータによる労働者の心身の健康についての実証分析」

報告者：高橋勇介 (愛媛大学)

討論者：坂西明子 (立命館大学)

## 第2報告(13:50～14:35)

「資格・専門職種の賃金構造に関する実証分析」

報告者：中野あい（元神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程・学術研究員）

討論者：岡本弥（神戸学院大学）

## 第3報告(14:35～15:20)

“Policing, Labor Market and Crime in Japan: Evidence from Prefectural Panel Data”

報告者：野村友和（大阪経済大学）

討論者：駿河輝和（神戸大学）

15:20～15:25 閉会の挨拶柳川隆（摂南大学関西部会代表）

※各報告は、報告 25 分、討論 10 分、リプライおよび一般討論 10 分の合計 45 分

## 2 見学会

今年度はコロナ禍で実施が難しいため中止した。

## 3 常務理事・幹事会

関西部会常務理事・幹事会

日時：2022年1月7日～13日

場所：メール審議

議題：

- (1) 関西部会 2021 年度大会（龍谷大学）について
- (2) 名誉会員の推薦について
- (3) 関西部会 2022 年度大会の開催校について

報告事項：

- (1) 役員選出について
- (2) 次回の常務理事・幹事会、常務理事・理事・幹事会について

関西部会常務理事・幹事会

日時：2022（令和4）年2月26日（土） 午後1時00分～午後2時15分

場所：神戸大学六甲台第1キャンパス本館2階大会議室

議題

- (1) 議事録の確認（常務理事・理事・幹事会 2021 年 3 月 13 日、常務理事・幹事会 2022 年 1 月 7 日～13 日）
- (2) 役員選出について
- (3) 名誉会員の推薦について
- (4) 関西部会 2021 年度大会（龍谷大学）について
- (5) 関西部会 2022 年度大会の開催校について
- (6) その他

関西部会常務理事・幹事会

日時：2022年5月4日～10日

場所：メール審議

議題：

- (1) 役員選出について

機関推薦理事と幹事（本部幹事・部会幹事）候補者について報告があり、一部修正のうえ了承した。

報告事項

- (1) 新常務理事会（2022年4月2日）について

新常務理事会の以下の事項について報告された。選挙で選出された常務理事の協議により、関西部会からは、竹廣良司先生（同志社大学）、長峯純一先生（関西学院大学）、勇上和史先生（神戸大学）が常務理事として選出された。次期の会長に福重元嗣先生、副会長（本部事務局担当）に宮田由紀夫先生、関西部会代表に衣笠智子先生がそれぞれ内定した。なお本部事務局は関西学院大学に置くことになる予定である。

#### 4 常務理事・理事・幹事会

日時：2022（令和4）年3月12日（土） 午後0時00分～午後0時45分

場所：龍谷大学深草キャンパス 22号館106教室

議題：

（1）議事録の確認（常務理事・理事・幹事会 2021年3月13日、常務理事・幹事会 2022年1月7日～13日、常務理事・幹事会 2022年2月26日）

議事録が承認された。

（2）役員選出について

選挙による常務理事は以下の4名となった。衣笠智子（神戸大学）、福重元嗣（大阪大学）、宮田由紀夫（関西学院大学）、柳川隆（摂南大学）（あいうえお順）。機関推薦理事について引き続き選出するよう依頼があった。

（3）名誉会員の推薦について

田中康秀会員（岡山商科大学）を名誉会員に推薦することとした。

（4）関西部会 2021年度大会（龍谷大学）について

木下信運営委員長より挨拶があった。

（5）関西部会 2022年度大会の開催校について

関西学院大学にて開催することとなった。運営委員長は宮田由紀夫常務理事。

（6）関西部会 2021年度会計報告

水野倫理本部幹事より監査報告があり承認した。

（7）その他

特になし。

（柳川 隆 記）

#### （2-4）西日本部会 2021年度 活動報告

令和3（2021）年度 西日本部会活動報告

##### ① 理事・幹事会の開催

令和3年度第1回日本経済政策学会西日本部会理事・幹事会

日時 令和3年5月8日（土） 11:30～12:10

方法 オンライン（zoomを用いたリアルタイム）

内容 第1号報告 全国常務理事・幹事会等について

第2号報告 令和2年度の事業実施について

第1号議案 令和2年度決算について

第2号議案 令和3年度予算について

第3号議案 第105回大会の報告会座長について

第4号議案 次回大会について

令和3年度第2回日本経済政策学会西日本部会理事・幹事会

日時 令和3年10月16日（土） 11:30～12:00

方法 オンライン（zoomを用いたリアルタイム）

内容 第1号報告 全国大会・全国常務理事・幹事会等について

第2号報告 次期役員の選出について

第1号議案 次回大会について  
その他

② 地方選挙管理委員会の開催

日本経済政策学会第16期常務理事選挙地方選挙管理委員会（西日本）

日時 令和4年2月23日（水） 13:00～15:00

場所 九州産業大学地域共創学部中会議室

内容 日本経済政策学会第16期常務理事選挙について

③ 部会大会の開催

日本経済政策学会西日本部会第105回大会（春季）

開催日時 令和3年5月8日（土）13:00～

開催方法 オンライン（zoomを用いたリアルタイム）

研究会（報告30分、予定討論15分、応答10分）

【第1報告】座長 相模裕一（西南学院大学） 13:00～13:55

「開放経済における環境・CSRと企業評価」

報告者 大野正久（熊本大学）

討論者 森田薫夫（福岡大学）

【第2報告】座長 高見博之（大分大学） 13:55～14:50

「解雇規制、関係特殊的投資及び汎用的（AI）投資」

報告者 三浦 功（九州大学） 眞田 英明（九州産業大学非常勤講師）

討論者 秋本耕二（久留米大学）

【第3報告】座長 宍倉 学（長崎大学） 15:00～15:55

「eスポーツに関するビジネスモデルの特徴と産業化の可能性～文献による比較研究～」

報告者 蘇日古嘎（ソルグ）（大分大学大学院経済学研究科博士後期課程 指導教員：渡邊博子）

討論者 望月拓実（大阪国際大学）

会員総会（研究会終了後、直ちに開催）

（1）令和2年度決算の報告について

（2）令和3年度予算の報告について

（3）理事・幹事会報告について

（4）その他

日本経済政策学会西日本部会第106回大会（秋季）

開催日時 令和3年10月16日（土）13:00～

開催方法 オンライン（zoomを用いたリアルタイム）

研究会（報告30分、予定討論15分、応答10分）

【第1報告】座長 宍倉 学（長崎大学） 13:00～13:55

「初等教育段階における学校外教育の媒介効果についての実証分析」

報告者 中村亮介（福岡大学）・田中宏樹（同志社大学）・金田陸幸（尾道市立大学）

討論者 小塩隆士（一橋大学）

【第2報告】座長 相模裕一（西南学院大学） 13:55～14:50

「近年のコメ価格変動に関する一考察」

報告者 外園智史（九州産業大学）

討論者 狩野秀之（宮崎大学）

会員総会（研究会終了後、直ちに開催）

- (1) 理事・幹事会報告について
- (2) その他

以 上

### (3) 各委員会報告

#### (3-1) 組織委員会 2021年度 活動報告

とくになし

#### (3-2) 経済政策ジャーナル編集委員会 2021年度 活動報告

経済政策ジャーナル編集委員会 活動報告（2022年5月8日時点）

経済政策ジャーナル編集委員長 飯島大邦

##### 1. 「経済政策ジャーナル」のJ-STAGE 掲載について

18巻2号

研究論文4本

発行日 2022年4月27日

公開日 2022年4月27日

URL: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jeps/-char/ja>

19巻1号（未確定、2022年9月発行予定）

研究ノート2本

##### 2. 投稿論文査読状況

(1) 2021年7月末日締切分

投稿論文12本のうち、研究論文として3本採択、研究ノートとして1本採択、  
審査中は3本、却下は5本

(2) 2021年12月末日締切分

投稿論文は3本で、審査中1本、却下2本

##### 3. 委員会予算執行について

18巻1号（学会誌編集・組版料、J-STAGE 掲載サポート）

78,540円（支払先 株式会社正文社）

18巻2号（学会誌編集・組版料、J-STAGE 掲載サポート）

105,490円（支払先 株式会社正文社）

#### (3-3) 国際交流委員会 2021年度 活動報告

##### 国際交流委員会報告

第22回（2023年）国際会議の開催校を立命館大学にお願いし、ご快諾をいただいた。  
運営委員長には坂西明子理事を予定している。

国際会議プログラム委員会報告  
国際会議運営委員会報告

第 21 回国際会議準備状況報告

プログラム委員長 矢尾板俊平 (淑徳大学)  
大会運営委員長 衣笠智子 (神戸大学)

1. 開催日時・会場

開催日時：2022 年 11 月 19 日 (土)、20 日 (日)

会場：神戸大学六甲台第 1 キャンパス

WEB ページ：<http://jepa.jpn.org/en/jepa2022/>

2. 開催形式について

会場での対面形式及びオンライン (Zoom 及びビデオ) のハイブリッド形式での開催を想定しています。なお、会場でのセッションをオンラインでつなぐ形式は、想定しておりません。

ただし、今後の新型コロナウイルス感染症の流行状況や海外からの渡航制限等の状況により、海外からの報告者についてはオンラインのみにするなど、今後、変更の可能性があります。7 月末を最終判断期日として、国際交流委員会、プログラム委員会、大会運営委員会の三者で協議していく予定です。

3. メインテーマ及び Plenary Session

メインテーマ：

Interdisciplinarity of Economic Policy Studies (経済政策研究の学際性)

Keynote speech：

Professor Roger Congleton, West Virginia University <http://rdc1.net/>  
“Interdisciplinary Policy Analysis, A Rational Choice Perspective(仮題)”

Plenary session：

第 1 報告：Presenter: Professor Keiichiro Kobayashi, Keio University  
“Interdisciplinarity in policy making at the time of crisis(仮題)”

第 2 報告：Professor Masayuki Sato, Kobe University  
“Interdisciplinary approach toward environmental conservation policy (仮題) ”

座長・討論者

- ・ Keynote Speech の座長：柳川隆先生 (摂南大学)
- ・ Plenary Session の座長：吉井昌彦先生 (神戸大学)
- 小林先生の報告の討論者：宮崎智視先生 (神戸大学)
- 佐藤先生の報告の討論者：柘植隆宏先生 (上智大学)

4. Call for Papers

プログラム委員会での議を経て、4 月上旬に別紙の内容にて、Call for Papers を開始い

たしました。

申し込み締め切り：2022年6月30日

フルペーパーの締め切り：2022年7月31日

## 5. 参加費等

	Early registration fee	Late registration fee (after October)
JEPA Members	JPY 5,000	JPY 8,000
Non-Members**	JPY 9,000	JPY 12,000
JEPA Student Members*	JPY 4,000	JPY 7,000
Student*	JPY 8,000	JPY 11,000

Note: Participants are required to pay the registration fee by credit card (VISA, MasterCard, JCB, AMERICAN EXPRESS(AMEX) or Diners Club).

\*Students are required to present a valid student ID.

\*\*Non-members are encouraged to apply for JEPA overseas membership. The JEPA membership fee for overseas members is JPY 5,000-, which includes the IJEPS subscription and a discount on international conference fees. Please inquire before your registration.

以上

### (3-4) IJEPS 編集委員会 2021年度 活動報告

2022年5月9日

IJEPS 編集委員会 2022年度上半期 活動報告

IJEPS 編集委員長 前田章

International Journal of Economic Policy Studies (IJEPS)編集と公刊の状況について報告いたします。

#### (1) 公刊状況

Volume 16, Issue 1, February 2022 : 15本の論文・記事掲載 (通常の研究論文)

Volume 15, Issue 2, September 2021 : 8本の論文・記事掲載 (通常の研究論文)

Volume 15, Issue 1, February 2021 : 12本の論文・記事掲載 (うち4本は特集と特集序文, 8本は通常の研究論文)

Volume 14, Issue 2, August 2020 : 10本の論文・記事掲載 (うち6本は特集と特集序文, 4本は通常の研究論文)

Volume 14, Issue 1, February 2020 : 12本の論文・記事掲載 (うち4本は特集と特集序文, 8本は通常の研究論文)

Volume 13, Issue 2, August 2019 : 10本の論文・記事掲載 (うち7本は特集と特集序文, 1本は解説記事, 2本は通常の研究論文)

Volume 13, Issue 1, January 2019 : 13本の論文・記事掲載 (うち4本は特集と特集序文, 9本は通常の研究論文)

#### (2) 投稿と査読の状況 (22年5月9日時点)

Springer 移行後の最終処理済み投稿論文：総数 146 件（採択 57 件，棄却 82 件，取下げ 7 件）

処理中投稿論文：修正依頼中 4 件，査読中 5 件，未処理 26 件

査読に要する平均日数：投稿から第一決定まで 122 日

論文ダウンロード数：18,979 回(2021 年総計)

### (3) 採択率

「採択率=(採択)/(採択+棄却)」

2022 年 5 月 9 日時点： (57)/(57+82)=41.0%

2021 年 11 月 3 日時点： (49)/(49+77)=38.9%

2021 年 5 月 10 日時点： (33)/(33+62)=34.7%

2019 年 11 月末時点： (6)/(6+22)=21.4%

### (4) 特記事項：IJEPS の文献データベース収録採択について

過日シュプリングer・ジャパン編集部のご担当の方より，IJEPS の文献データベース収録申請について，採択された旨，連絡があった．今回採択の連絡があったのは次の 2 つのデータベース．

(a) Elsevier 社の運営する Scopus (22 年 4 月 12 日付)

(b) American Economic Association の運営する EconLit (22 年 4 月 21 日付)

背景：

シュプリングer・ジャパン編集部は IJEPS の同社発刊開始 (2019 年) から 3 年を経て，2022 年初めに各種の文献データベースへの収録を申請する予定であった．採択はデータベース運営主体独自の判断であり，その条件は容易とは言い難いものであるといえる．

昨年 5 月時点の編集部の計画としては，今回採択が決定した Scopus と Clarivate Analytics 社の運営する Emerging Sources Citation Index (ESCI) に申請するとのことであった．後者については目下結果待ちというところであると思われる (昨年 5 月時点の計画と見込みの詳細については添付資料を参照)．EconLit については聞かされていなかったが申請してくれていた．

今後：

Scopus 運営主体からは審査コメントが付いており，それを見ると，高く評価されつつも今後更なる努力が必要という様子である．

*The journal has clear aims and scope/journal policies that are consistent with the journal's content. Hope the inclusion into Scopus helps the journal enhance its profile. In future, the journal needs to make improvements in the following areas.*

*- The journal shows an uneven scholarly quality in the articles, indicating that peer review and editorial management need to be strengthened.*

*- The geographical reach of authorship and/or content is limited.*

*- Low citations in good journals indexed in Scopus*

*- Some of the abstracts are difficult to understand and do not provide an adequate summary of each article's content.*

また，EconLit の採択を受けてのシュプリングer・ジャパン編集部のコメントも，今後の安定した体制づくりが必要との趣旨のものであった．

「現在の Springer Nature 社では，年間 25 本以上の出版がないジャーナルの刊行継続は，例外的に著名なジャーナルを除いて難しくなっております．将来的なことを考えますと，毎年コンスタントに 25 本以上のペースで採択できるような体制づくりが今年のうちにも必要，と思われまます．出版する論文のクオリティが重要であることは言うまでもございません．SCOPUS, EconLit に採択されたことにより，今後，論文の良い投稿が増えることが期待されますが，さらに優良論文を呼び込むための特集の立案、Aims and Scope の見直し、Editorial Board の見直しなど、引き続き何卒よろしくお願い致します。」

### (5) 参考：海外学術出版社 Springer 社への移行の経緯

2018年1月より Springer 社との交渉を開始  
2018年2月末 Proposal 提出, Springer 社側で外部審査  
2018年5月 Springer 社側の外部審査終了, 条件付きで刊行を可とする旨通知  
2018年5月末 Proposal 修正の上再提出と共に出版契約 (5月29日付)  
(2019年1月より年2回 (1月末、7月末) 出版決定 (2年間の試行))  
2018年7月 Springer 社投稿受付・編集サイト Editorial Manager(EM)立ち上げ  
2019年1月 Springer 社より初公開 (IJEPS13号: 冊子体・電子版, 掲載13件)  
2019年2月これまでの IJEPS 全巻を Springer 電子版へ移行完了  
(2006年~19年全13巻, 全掲載論文97件)

以上

### (3-5) 学会運営企画委員会 2021年度 活動報告

とくになし

### (3-6) 全国大会プログラム研究・開発委員会 2021年度 活動報告

全国大会プログラム研究・開発委員会 2021年度活動報告

全国大会運営委員会と協力し、全国大会の準備を行った。自由論題のプログラム編成のため、3月5日に予定されていた全国大会プログラム体制委員会は自由論題の応募数が少なかったため19日に延期し、ZOOMでの開催となった。自由論題のプログラム編成・座長・討論者の決定は3月末に完了した。なお、体制委員会が対面でおこなわれなかったため、出席委員への旅費の支出がなくなったので、今年度の全国大会プログラム研究・開発委員会の予算執行額はゼロとなった。

〈委員長宮田由紀夫〉

### (3-7) 情報委員会 2021年度 活動報告

2022.5.11.

#### 情報委員会 2022年度上期 活動報告

#### 1. ホームページ (HP) の管理

本部事務局の依頼を受けて、学会員に対する HP (日本語版 <http://jepa.jpn.org/>, 英語版 <http://jepa.jpn.org/en/>) への情報掲載を柴田怜委員 (国士舘大学) が行った。

#### 2. 全国大会の開催準備

2022年度の全国大会の開催準備を和泉徹彦副委員長 (嘉悦大学) が手伝った。

#### 3. 各種会議のオンライン開催支援

地方部会からオンラインでの会議開催の要望があったため、和泉徹彦副委員長 (嘉悦大学) が支援を行った。

文責: 情報委員長 松本 茂  
情報副委員長 和泉徹彦

#### (4) その他

##### (4-1) 日本経済学会連合創設 70 周年記念事業

2022 年 5 月

#### 日本経済学会連合創設 70 周年記念事業 Web 出版報告

前田章

同連合創設 70 周年記念事業として以下の要領で Web 出版を行うとのことでした。

- ・統一テーマ「21 世紀における持続可能な経済社会の創造に向けて」の範囲内で各学会が独自のテーマを設定
- ・日本語原稿で要旨を含めて 8,000～10,000 字
- ・加盟 62 学会へ原稿依頼
- ・62 学会を 4 分割して発行予定（7，9，10，11 月）

本件について小澤会長より対応の指名を直々に頂きましたので、期限（22 年 3 月末）に間に合うよう拙稿を提出しておきました。期限が迫っていたためご関係の方々に題目設定と内容について十分にご相談申し上げることができませんでした。勝手な判断で原稿の作成・提出を行いましたこと深くお詫び申し上げます。提出しました題目および要旨は以下の通りです。

題目：「気候変動問題と経済モデル分析」

要旨：

「本稿では持続可能な経済社会の創造という脈絡で、気候変動政策問題に焦点を当て、そうした問題に対して経済理論と分析手法がいかに重要な役割を果し得るか、そして実際に果たしているか論証したい。気候変動は、それ自体は地球物理という自然科学の領域であり、これまで経済学と組み合わせることがまったくなされなかった領域である。また、その経済への影響は経済学的には環境外部性であり、その点では従来の経済理論の範囲に収まるものである。しかしながら気候変動の空間的・時間的スケールに鑑みれば、この問題は従来の経済学の分析方法ではまったく手に負えない課題となっている。そうしたなかで、新古典派最適経済成長モデルに自然科学の知見に基づく気候モデルを組み合わせ、汎用性の高い形の経済モデルを提示した研究がある。それは 2018 年ノーベル経済学賞となったノードハウス博士の DICE モデルであり、これを起点とした統合評価モデルである。本稿ではこうした研究の事例を通して、経済モデル分析の意義と役割について考察する。」

以上

#### 日本経済学会連合創設 70 周年記念事業動画報告

和泉徹彦

日本経済学会連合の YouTube チャンネルに登録する、日本経済政策学会の紹介動画（約 15 分）を作成しました。学会の沿革に始まり、全国大会・国際会議の開催、『経済政策ジャーナル』および「IJEPS」の発行といった活動概要を、ご担当の先生方のリレー説明動画として構成しております。最後は、若手研究者歓迎のメッセージ、入会案内と学会ホームページへの誘導で締めて、新入会員獲得に向けた広報になることを期待しています。

以上

(4-2) 故新野幸次郎先生「偲ぶ会」

2022年5月7日(土) 13:00~15:00  
神戸大学六甲第一キャンパス

(4-3) 故丸尾直美先生「偲ぶ会」

2022年12月3日(土) 14:00~  
慶應義塾大学三田キャンパス

## 2. 協議事項

### (1) 会員状況

2022年5月31日現在

		A	B	C	D	E	計
		関東	中部	関西	西日本	海外・その他	
前年度	一般会員	353	89	192	80		714
	学生会員	17	2	23	9		51
	シニア会員	37	9	18	7		71
	海外会員					4	4
	準会員						0
	団体会員	2					2
	賛助会員						0
	計	409	100	233	96	4	842
現会員	一般会員	338	84	188	72		682
	学生会員	13	1	19	8		41
	シニア会員	44	12	17	7		80
	海外会員					5	5
	準会員						0
	団体会員	2					2
	賛助会員						0
	計	397	97	224	87	5	810
新会員	一般会員	3		2	1		6
	学生会員	3	2	4			9
	シニア会員						0
	計	6	2	6	1	0	15
復活会員	一般会員						0
	計						0
総計		403	99	230	88	5	825
会員資格の喪失		14	3	10	3		30
変更後の総計		389	96	220	85	5	795

**会員異動**

**① 訃報(届出順)**

1	佐竹隆幸	関西学院大学	2	池田勝彦	関西学院大学
3	古川克	埼玉県立狭山緑陽高校			
					(以上 3 名)

**② 退会者(届出順) \*は学生会員 #はシニア会員**

1	堀 由美子	城西大学	2	福島久一	日本大学	#
3	案浦崇	松蔭大学	4	信吉史明	大阪産業大学	#
5	福田敏浩	滋賀大学	#	6	山本匡毅	高崎経済大学
7	松水征夫	広島大学	#	8	田中美生	神戸学院大学
9	福岡比呂志	久留米大学	10	高橋秀悦		
11	葉原壽人	京都産業大学	12	加藤正昭	大東文化大学	
13	知念肇	琉球大学	14	浜本光紹	獨協大学	
15	木村秀昭		#	16	笹川陽子	宇都宮共和大学
17	清水政行	琉球大学	18	石坂貴美	関東学院大学	
19	小竹裕人	群馬大学	20	村上由紀子	早稲田大学	
21	太田耕史郎	広島修道大学	22	佐々木昇	福岡大学	
23	有賀平	一般社団法人 日本損害保険協会	24	大塚健太郎	国土舘大学	
25	金野和弘	島根県立大学	26	宮崎智子	三井物産株式会社	
27	椿光之助	山口大学	28	上村敏之	関西学院大学	
29	森誠	大阪経済法科大学				
						(以上 29 名)

**③ 会員資格の喪失**

	別紙参照				
--	------	--	--	--	--

**④ 復活会員  
無**

⑤	所属・部会・変更・訂正 (50音順) その1		*は学生会員、#はシニア会員			
	名前	旧所属		新所属	旧	新部会
あ	有賀平	あいおいニッセイ同 和損害保険㈱	→	一般社団法人 日本損害保険協会	A	→ A
	安藤詩緒	常葉大学	→	拓殖大学	B	→ A
	大場智子	立教大学	→	城西大学	A	→ A
	伊藤晋	中央大学	→	新潟県立大学	A	→ A
	王佳星	青山学院大学	* →	札幌学院大学	A	→ A
	市川芳郎	日本文理大学	# →		D	→ D
	池田晃彦	京都先端科学大学	→	京都産業大学	C	→ C
	岩本朋大	名古屋市立大学大学 院	* →	福井工業大学	B	→ B
	大岡一馬	神戸大学 経済学研究科	* →	神戸大学 経済学研究科	C	→ C
	伊勢公人	一般社団法人 海外電力調査会	→	大阪経済法科大学	A	→ C
	大野太郎	信州大学	→	財務省 財務総合政策研究所	B	→ A
か	姜佳明	岡山大学 社会文化科学研究科	* →	岡山大学 社会文化科学研究科	C	→ C
	岸田泰則	法政大学大学院	* →	法政大学	A	→ A
	柏木士郎	九州産業大学	→	九州共立大学	D	→ D
	北村友宏	神戸大学	→	同志社大学	C	→ C
	菅準一	尾道市立大学	# →		C	→ C
	栗林世	中央大学	# →		A	→ A
	木下祐輔	アジア太平洋研究所	* →	大阪商業大学	C	→ C
	小林秀行	青山学院大学	→	労働安全衛生総合研究 所	A	→ A
さ	佐藤晴彦	平成国際大学 スポーツ健康学部	→	平成国際大学 法学部	A	→ A
	木口武博	京都先端科学大学	→	日本大学	C	→ A
	柴田怜	聖学院大学	→	国士舘大学	A	→ A
	塩谷英生	(公財) 日本交通公社	→	國學院大學	A	→ A
	鈴木 紫	文京学院大学	→	共立女子大学	A	→ A
	スルトノフ ミルゾサイド	東北公益文科大学	→	東洋大学	A	→ A
	佐藤純恵	名古屋経済大学	→	名城大学	B	→ B
	佐藤佑一	中央大学	* →	中央大学	A	→ A
た	高中公男	事業創造大学院大学	→	関西外国語大学	A	→ C
	椿光之助	玄奘大學	→	山口大学	A	→ D
	醍醐昌英	関西外国語大学	→		C	→ A
	続橋孝行	国士舘大学	→	日本大学	A	→ A
	釣雅雄	岡山大学	→	武蔵大学	C	→ A
な	西原是良	早稲田大学	→	東京大学	A	→ A
	西川浩平	摂南大学	→	関西大学	C	→ C
	仲間瑞樹	山口大学	→	流通科学大学	D	→ C
	中村亮介	福岡大学	→	関東学院大学	D	→ A

⑤ 所属・部会・変更・訂正 (50音順) その2

\*は学生会員、#はシニア会員

	名前	旧所属		新所属	旧	新部会
は	廣光俊昭	財務省	→	在米国日本国大使館/ 財務総合政策研究所	A	→ E
	福岡比呂志	熊本学園大学	* →		D	→ D
	福永肇	金城大学	→	埼玉学園大学	B	→ A
	平井友行	みずほファイナン シャルグループ	→	西部石油株式会社	A	→ A
	平賀一希	東海大	→	名古屋市立大	A	→ B
ま	村上敬進	沖縄大学	→	大阪国際大学	D	→ C
	三浦一輝	常葉大学	→	愛知学院大学	B	→ B
	望陀芙美子	城西大学 現代政策学部	→	城西大学 経済学部	A	→ A
	門傳藍香	東京都立大学	→	二松学舎大学	A	→ A
	前田隆二	佐世保工業高等専 門学校	→	国立高等専門学校機構	D	→ A
	前川俊一	椙山女学園大学	→	明海大学	B	→ A
	森川浩一郎	近畿大学	→	中京大学	C	→ B
	水谷剛	金融庁	→		A	→ A
	松本和幸	中央大学	# →	学習院大学	# A	→ A
や	山岡淳	医療経済研究機構	→	神戸大学	A	→ C
	山根啓太	一般財団法人交通 経済研究所、新潟 産業大学		中央学院大学	A	→ A
	山岡淳	神戸大学	→	大阪成蹊大学	C	→ C
	山田大地	東京大学	→	北海道大学	A	→ A
わ	渡邊正	宮崎産業経営大学	→	兵庫教育大学	D	→ C

⑥シニア会員

\*は学生会員

名前		旧所属		新所属			
あ	井ノ口登	神戸大学大学院	*	→		学生	→ シニア
	家本博一	名古屋学院大学		→	名古屋学院大学	一般	→ シニア
	小淵洋一			→		一般	→ シニア
	植村利男	亜細亜大学		→	亜細亜大学	一般	→ シニア
か	小峰隆夫	大正大学		→	大正大学	一般	→ シニア
	久保広正	摂南大学		→		一般	→ シニア
	加藤晃	北海道教育大学		→		一般	→ シニア
た	田代尚機	TS・チャイナ・リサーチ株式会社		→		一般	→ シニア
	田中廣滋	中央大学		→	中央大学	一般	→ シニア
	土田壽孝	國學院大学		→	國學院大学	一般	→ シニア
ま	水田 健一			→	名古屋学院大学名誉教授	一般	→ シニア
	森寛史	宇都宮共和大学		→	宇都宮共和大学	一般	→ シニア
は	淵上勇次郎	高崎商科大学		→	高崎商科大学	一般	→ シニア
わ	渡部和男	東京理科大学		→		一般	→ シニア
							(以上 14名)

⑦海外会員

名前	所属	備考
廣光俊昭	在米国日本国大使館/ 財務総合政策研究所	所属変更
(以上 1名)		

㊦ 2021 年度新会員 \* は学生会員、# はシニア会員

名前		所属	推薦者	部会
KYI KYI THAR	*	岡山大学社会文化科学研究科	張星源・姜佳明	C
尾室拓史		一般社団法人全国銀行協会	小澤太郎・和田龍馬	A
稲垣光	*	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科	小澤太郎・玉村雅敏	A
亀田啓悟		関西学院大学	長峯純一・野村宗訓	C
Melisa Manzano Fabella	*	立命館大学 経済学研究科	黒川清登・杉田伸樹	C
Soulivanh Chansombuth	*	立命館大学 経済学研究科	黒川清登・杉田伸樹	C
宮下大輔	*	名古屋大学経済学研究科	土井康裕・柳原光芳	B
東陽平	*	明治大学 商学研究科	千田亮吉・武田巧	A
澤田吉孝		京都先端科学大学	平田謙輔・久下沼仁筈	C
井澤 宏	*	名古屋大学経済学研究科	園田正・土井康裕	B
安田公治		青森公立大学	衣笠智子・勇上和史	A
山田航汰	*	関西大学大学院経済学研究科	溝端泰和・本西泰三	C
坂元洋一郎		長崎県立大学	三浦功・秋山優	D
井上裕之		東京経済大学	青木亮・土肥原洋	A
濱名仁美	*	慶應義塾大学大学院商学研究科	権丈英子・中村まづる	A
			(以上 15名)	

(2) 2021年度決算書の件 その1

日本経済政策学会 2021年度決算書(2021年4月1日-2022年3月31日)

収入			支出		
摘要	2021年度予算	2021年度決算	摘要	2021年度予算	2021年度決算
<b>前年度繰越金</b>	<b>11,943,371</b>	<b>11,943,371</b>	<b>大会費</b>	<b>1,200,000</b>	<b>1,200,000</b>
予備費	11,943,371	11,943,371	<b>国際会議費</b>	<b>1,200,000</b>	<b>1,200,000</b>
<b>会費</b>	<b>7,300,000</b>	<b>6,997,000</b>	<b>部会費</b>	<b>540,000</b>	<b>540,000</b>
個人会員	7,200,000	6,897,000	関東部会	150,000	150,000
団体会員	100,000	100,000	中部部会	120,000	120,000
賛助会員	0	0	関西部会	150,000	150,000
			西日本部会	120,000	120,000
<b>余剰金</b>		<b>846,020</b>	<b>委員会費</b>	<b>520,000</b>	<b>300,000</b>
2020年度経済政策ジャーナル編集委員会費返金		101,770	組織委員会	50,000	50,000
2021年第78回全国大会費返金		744,250	経済政策ジャーナル編集委員会	200,000	200,000
<b>利息等</b>		<b>46</b>	国際交流委員会	40,000	0
<b>その他</b>		<b>13,000</b>	国際会議プログラム委員会	40,000	0
			IJEPS編集委員会	40,000	0
			学会運営企画委員会	50,000	0
			全国大会プログラム研究・開発委員会	50,000	50,000
			情報委員会	50,000	0
			<b>IJEPS刊行費</b>	<b>2,050,000</b>	<b>2,012,500</b>
			<b>学会連合分担金</b>	<b>35,000</b>	<b>35,000</b>
			<b>本部事務費</b>	<b>2,680,000</b>	<b>1,657,825</b>
			事務諸費	1,700,000	1,187,871
			印刷費	130,000	91,146
			通信費	200,000	112,336
			会議費	200,000	0
			IJEPS校正料	150,000	0
			選挙費用	200,000	236,472
			その他	100,000	30,000
			<b>小計</b>	<b>8,225,000</b>	<b>6,945,325</b>
			<b>次年度繰越金</b>	<b>11,018,371</b>	<b>12,854,112</b>
			予備費	11,018,371	12,854,112
<b>総計</b>	<b>19,243,371</b>	<b>19,799,437</b>	<b>総計</b>	<b>19,243,371</b>	<b>19,799,437</b>

2021年度繰越未払残高は、下記5つの預貯金口座の2022年3月31日時点残高の合計と一致しております。

2022年3月31日預金口座残高	
ゆうちょ銀行普通口座	7,978,954
ゆうちょ銀行当座口座(入金用)	2,680,000
ゆうちょ銀行定期口座	2,117,000
スルガ銀行普通口座	77,158
スルガ銀行普通口座(入金口)	1,000
現金	0
合計	12,854,112

繰越金と口座残高	
決算報告書次年度繰越金	12,854,112
2022年3月31日預金口座残高合計	12,854,112

上記相違ないことを確認いたしました。

2022年5月2日  
会計監事 渡邊 聡

長屋 真季子

(2) 2021年度決算書の件 その2

国際会議基金 2021年度決算報告書(2021年4月1日-2022年3月31日)

収入		支出	
前年度繰越金	5,491,268	2021年度国際会議費(担当校に配分)	200,000
2021年度第20回国際会議費(一般会計から移動)	1,200,000	振込手数料(2021年度国際会議費)	550
2021年度第20回国際会議参加登録費受入	827,000	2021年度国際会議経費: 討論者登壇料; 福田慎一先生	50,000
2021年度第20回国際会議費返金(一般会計から移動)	87,021	振込手数料(福田慎一先生)	550
利息	22	2021年度国際会議経費: パネリスト登壇料; 岩田一政様	30,000
利息	26	振込手数料(岩田一政様)	550
		2021年度国際会議経費: レジストレーションシステム作成・運営費(JTB)	406,995
		振込手数料(JTB)	550
		2021年度国際会議経費: 源泉所得税10.21%納付(福田先生・岩田様分)	9,096
		2021年度国際会議参加登録時受入年会費(一般会計へ移動)	50,000
		2021年度国際会議経費: 講演料、原稿料; 浜田宏一先生(アメリカ在中、国内銀行振込)	300,000
		振込手数料(浜田宏一先生)	550
		2021年度国際会議経費: 源泉所得税20.42%納付(浜田先生・Comanor先生分)	153,958
		2021年度国際会議経費: 講演料、原稿料; Comanor先生(アメリカ在中、海外送金)	300,000
		振込手数料(海外送金)	12,500
		次年度繰越金	6,090,038
合計	7,605,337	合計	7,605,337

繰越金と口座残高	
決算報告書次年度繰越金	6,090,038
スルガ銀行国際会議基金口座残高	6,090,038

上記相違ないことを確認いたしました。

2021年5月2日  
会計監事 渡邊 聡

長屋 真季子

(3) 2022年度予算書の件 その1

日本経済政策学会 2022年度予算案(2022年4月1日-2023年3月31日)

収入			支出		
摘要	2021年度決算	2022年度予算	摘要	2021年度決算	2022年度予算
<b>前年度繰越金</b>	<b>11,943,371</b>	<b>12,854,112</b>	<b>大会費</b>	<b>1,200,000</b>	<b>1,200,000</b>
予備費	11,943,371	12,854,112	<b>国際会議費</b>	<b>1,200,000</b>	<b>1,200,000</b>
<b>会費</b>	<b>6,997,000</b>	<b>7,300,000</b>	<b>部会費</b>	<b>540,000</b>	<b>540,000</b>
個人会員	6,897,000	7,200,000	関東部会	150,000	150,000
団体会員	100,000	100,000	中部部会	120,000	120,000
賛助会員	0	0	関西部会	150,000	150,000
			西日本部会	120,000	120,000
<b>余剰金</b>	<b>846,020</b>		<b>委員会費</b>	<b>300,000</b>	<b>520,000</b>
2020年度経済政策ジャーナル編集委員会費返金	101,770		組織委員会	50,000	50,000
2021年第78回全国大会費返金	744,250		経済政策ジャーナル編集委員会	200,000	200,000
<b>利息等</b>	<b>46</b>		国際交流委員会	0	40,000
<b>その他</b>	<b>13,000</b>		国際会議プログラム委員会	0	40,000
			IJEPS編集委員会	0	40,000
			学会運営企画委員会	0	50,000
			全国大会プログラム研究・開発委員会	50,000	50,000
			情報委員会	0	50,000
			<b>IJEPS刊行費</b>	<b>2,012,500</b>	<b>2,050,000</b>
			<b>学会連合分組金</b>	<b>35,000</b>	<b>35,000</b>
			<b>本部事務費(慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス)</b>	<b>1,657,825</b>	<b>500,000</b>
			事務諸費	1,187,871	300,000
			印刷費	91,146	100,000
			通信費	112,336	100,000
			会議費	0	0
			IJEPS校正料	0	0
			選挙費用	236,472	0
			その他	30,000	0
			<b>本部事務費(関西学院大学)</b>		<b>2,200,000</b>
			事務諸費		1,500,000
			印刷費		150,000
			通信費		100,000
			会議費		200,000
			IJEPS校正料		150,000
			選挙費用		0
			その他		100,000
			<b>小計</b>	<b>6,945,325</b>	<b>8,245,000</b>
			<b>次年度繰越金</b>	<b>12,854,112</b>	<b>11,909,112</b>
			予備費	12,854,112	11,909,112
<b>総計</b>	<b>19,799,437</b>	<b>20,154,112</b>	<b>総計</b>	<b>19,799,437</b>	<b>20,154,112</b>

(3) 2022年度予算書の件 その2

国際会議基金 2022年度予算案

収入		支出	
前年度繰越金	6,090,038	国際会議費調整金	300,000
		次年度繰越金	5,790,038
合計	6,090,038	合計	6,090,038

#### (4) 名誉会員の推薦の件

##### [関東部会]

谷口洋志先生

2004～2021年度 常務理事（6期18年）  
2016～2018年度 副会長（1期3年）  
2016～2018年度 経済政策ジャーナル編集委員会委員長（1期3年）  
2016～2018年度 事業改革WG構成員  
2010～2012年度 組織委員会委員副委員長（1期3年）  
2010～2012年度 学会選考賞委員会委員長（1期3年）  
2007～2009年度 組織委員会委員委員長（1期3年）  
2001～2003年度 研究開発委員会事務局長（1期3年）  
2001～2003年度 本部幹事（1期3年）  
1998～2000年度 部会幹事（1期3年）  
1952年生まれ

##### [関西部会]

田中康秀先生

2007～2018年度 常務理事（4期12年）  
2010～2012年度 副会長（1期3年）  
2007～2009年度 関西部会代表（1期3年）  
2004～2006年度 理事（1期3年）  
1992～2006年度 本部幹事（5期15年）  
2001～2003年度 組織委員会委員（1期3年）  
1989～1991年度 部会幹事（1期3年）  
1950年生まれ

(5) 全国大会・国際会議の件

(5-1) 2022年度 第79回 全国大会 名古屋学院大学

(5-2) 2023年度 第80回 全国大会 中央大学

日本経済政策学会 第80回全国大会（於 中央大学）について

第80回全国大会 運営委員会  
飯島 大邦

<開催概要>

- ・大会テーマ：これからの経済政策を考える
- ・開催期間：2023年5月27（土）・28日（日）（予定）
- ・開催場所：中央大学 多摩キャンパス

<大会趣意書>

グローバル化の進展は、各国間の関連性を強める一方で、各国内においては、さまざまな考え方が対立する状況を生み出している。さらに、2020年からは、世界規模のウイルス感染により経済活動は停滞を余儀なくされ、それに対応するため、各国は経済政策を実施してきた。また、ロシアによるウクライナ侵攻により、西側諸国はロシアに対して経済制裁を実施しているが、これは、ロシアのみならず、西側諸国にも、資源価格の上昇など深刻な影響を与えることになる。このような状況において、経済活動は、これまで以上に、多様性を有する主体の間で、より密接に営まれる一方で、より不安定な下にある。経済政策も、このような状況を考慮して、よりの確に立案され、実施される必要に迫られている。さらには、経済政策の原理の再検討も必要とされる状況であると考えられる。

このような問題意識の下、第80回全国大会においては、大会テーマに即した2つのサブテーマを設定する。一つ目のサブテーマは、データを使って今後の経済政策の方向を探ることである。経済政策の是非を論じる際に重要となる論点の一つに、過去の政策に対する評価が必要であるが、そのためには、因果関係の考察が不可欠である。さらに、因果関係の考察の際に、その政策を為した世界と為さざる世界を記述する因果の構築が必要となる。因果を正確に捉えることは非常に難しいが、RCT (Randomized Controlled Trial) を援用して効果的な貧困政策を検証したアビジット・バナジー教授らは、その功績が認められ、2019年のノーベル経済学賞を受賞している。しかしながら、どんなに丁寧に因果を説明したとしても、それが正確に未来を予測するとは限らないため、コンピューターサイエンスで最近使われている機械学習などが有効であると考えられている。例えば、インフルエンザの感染予測をGoogleが機械学習を用いて行ったGoogle Flu Trendが機械学習を使った未来予測として有名である。これらの手法を理解し活用する経済政策の可能性を模索することを試みたい。

二つ目のサブテーマは、歴史的転換の中で経済政策原理の変化について考えることである。一つ目のサブテーマにおける新しい手法が登場しつつある背景には、大づかみに表現すれば、従来の経済社会像の転換と、それと結びついた人間観の転換が存在していると思われる。合理的な経済主体のミクロ的分析をマクロへと集計するというだけでは見逃されがちだった中間レベルでの複雑な諸要因——それは一言で言えば「制度的要因」と言ってもよいかもしれない——が、われわれの経済社会の把握や政策の実効性にとって重要であるという認識が登場してきているのではないかと思われる。この見方と、非伝統的データ

を活用して経済社会の一部を切り取って分析する手法の展開とは、互いに強化しあっているように思われる。そして制度レベルでの分析には、従来の自由で自律的な人間観とは異なるものが要請されているかのようなのである。経済政策もこのような歴史的転換の中で変化しつつあることも主題化することに挑戦したいと考える。

このような第 80 回全国大会の企画が、日本経済政策学会が、経済政策原理（論）の新たな展開を模索する際の一助となることを希望する次第である。

(5-3) 2024 年度 第 81 回 全国大会

(5-4) 2022 年度 第 21 回 国際会議 神戸大学

1. 報告事項 (3-3) 国際交流委員会 2021 年度 活動報告を参照

(5-5) 2023 年度 第 22 回 国際会議 立命館大学

(6) 2021 年度学会賞の件

(下記の) 学会賞の選考規定により、選考委員会にて、経済政策ジャーナル及び IJEPS の編集委員より推薦のあった論文について (1) 学術賞 (Academic Award) (2) 研究奨励賞 (Junior Award) について審査を行ったが、本年度は、該当なしという結論に至りました。

(ただし、学術賞については推薦された論文が 2 本、研究奨励賞については推薦論文がなかった。)

<申し送り事項>\*\*\*\*\*

研究奨励賞の場合：大学院生を候補とすることが、2019 年 10 月（慶応での国際会議時）の常務理事幹事会で確認された。共著の場合、First Author が会員であることを条件とした。対象者は院生（その当時）のみとなる。これで問題ないと思われるが、単著のみを対象とするという考え方もある。もちろん、対象者は学会員であることを条件とする。

\*\*\*\*\*